

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370800470		
法人名	医療法人 弘友会		
事業所名	みんなの家 いずみ		
所在地	総社市小寺990		
自己評価作成日	令和5年12月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 6年 1月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・緑豊かな田園地帯の中、春には桜や桃が咲き、隣接する小学校や保育園からは子供たちの元気な声が常に聞こえてくる環境にあります。「いつも幸せ、ずっと幸せ、みんな幸せ」をモットーに、自分の家族と思いきや楽しく幸せに生活していただけるよう、努めています。重度の方もおられるので、具体的に、わかりやすい声かけ、タッチケア等でマンツーマンでの対応を心掛けながら関わっています。(コロナ禍の為、面会、外出も規制がかかっています。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念「全人的で温かな切れ目のない医療、介護を提供し、地域の健康増進に寄与する」を玄関に掲示し、ホールには「いつも幸せ、ずっとしあわせ、みんな幸せ」のモットーが掲示されています。南向きの窓からは温かい日差しが利用者の笑顔を包み込み、穏やかな時間が流れています。新陳代謝、身体の修復、リラックス効果等を考慮して、一人一人のタイミングを大事に週3回の入浴と、季節の旬の野菜を使って毎食手作りの食事が提供されていることから利用者本位の介護支援が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りノートなどを活用し共有している	朝礼で理念の唱和をして職員間で理解と共有を図っています。職員一人ひとりが問題を抱え込まないように風通しを良くして早期発見、早期解決に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、外部との交流を図れなかった為	近隣の保育園児の訪問や法人での実習生の受け入れをしたり、小学生の運動会、地域のとんど祭りなどに参加したりしていたが、コロナ禍以降は自粛しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、御家族、市の方からのご意見を頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、文書での報告とご家族の代表の方からの意見などを取り入れています。R5.8月より開催。	運営推進会議の報告、職員への徹底は委員会ファイルして閲覧や、毎月のミーティングで情報共有しています。ヒヤリハット報告では(躓き、転落、転倒、誤薬、余薬など)対応策も含めて報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの連絡のみ。施設からの発信は出来ていません	毎月市より派遣された介護相談員が、入居者の面談、会話を通じて思いを聞き取り、フィードバックして職員の気づきに繋げています。行政からの感染症対策についてもその都度連絡をもらい職員へ情報共有しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティングで個々の状態、状況などについて話し合いの場を設けています。(業務中にもスタッフ間で意見交換される。)	事業所の構造上玄関の中扉の施錠について家族への説明を行い、理解を得ています。帰宅願望の強い入居者については、スタッフ間で連携をとりながら、敷地内の散歩で気分転換を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市からの連絡のみ。施設からの発信は出来ていません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部で学ぶ機会を掴めず。ホーム内でのみの話し合い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍の中、家族との面会厳しいも、職員とは日頃の事などについて話す機会を設ける		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族へ問いかけるなど必ず話している	面会に関する意見・希望が多くあり、前向きに検討しコロナ感染対策をして、玄関での面会を実施しています。面会時に家族へ入居者の「暮らし、健康状態」を伝え安心感に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問に思う事など担当者に確認を取っている	ミーティング時に職員の意見を聞き取りその意見を所属会議に提出しています。職員間では休憩時などさりげない会話から問題提起に関する内容が多くあり運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備については早目早目の対応に務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の中、法人内の研修も中止傾向の為実施できず		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流深めれず		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い話をしたり、スタッフ間での申し送りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に家族の思いに寄り添っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画書などを元に落ち着いた雰囲気の中で話している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まずは聴く姿勢に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、面会をお断りしている	地域からの入居者は少なく他施設から入居する機会が多いので、地域住民との関係性は希薄ですが、手紙のやり取りや電話の取り継ぎを通して関わりが深まったり途切れないように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の気持ちを大切に話に耳を傾けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話、立ち寄りなどにはその都度対応に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム内で本人の思いを重視している	身体に触れたり、表情やしぐさから入居者の意向の把握に努めています。家族からの情報や入居前の暮らしなどライフストーリーから検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフミーティングにて共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートの活用にて努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態などの把握により介護計画を作成している	3ヶ月に一回モニタリングを行い現状の確認をしています。プランの変更等、ミーティングノートでの情報共有を図っています。医師の意見についても往診時に報告された内容は連絡ノートで情報共有しプランに活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を利用し職員間での共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなサービスには取り組めず		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部との接触図れず取り組みず		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に週2回の訪問診療を活用しながら定期検診も実施している	法人内のクリニックの訪問診療・訪問看護などで継続した適切な医療をうけています。疾患によっては他病院への通院を協力を得て家族が付き添っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護の方がホームに来られアドバイスを受ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	敷地内にあるクリニックにて情報交換もでき、よき関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との連絡を密に、その方に合った支援に努めている	契約時の説明と、状況に応じた継続的な話し合いを通じて方針を決め支援に取り組んでいます。看取りについても生活環境の延長であると捉え馴染みの声、生活の匂い等の空間の中で支援をしています。職員によるカンファレンスを通じて看取りの実践を積み上げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練とまでは行かないも、ミーティング時に話し合いの場を設けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施は出来ておらず、ミーティング時に再確認を行っている	夜間想定避難訓練を行い、職員間での報告会を行っています。今後は地震想定避難訓練や防災講話など計画しています。	暗い時間帯での避難訓練や消火器訓練・非常通報装置の模擬的訓練などに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声掛けなど常日頃から心がけている	尊厳と権利を守ることを基本にひとり一人状況に応じて声かけをしています。さりげない「行きましょう」の声かけでトイレへ付き添っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを優先に対応できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いを尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容時、入浴時には好みの服装を本人に問いかけをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜の生野菜なども一緒に出来ている	高齢のため以前よりは減ってきていますが、ひとり一人の能力を活かしながら、ピーマンの種取や豆の殻取りなど手伝ってもらっています。旬の食材を使って季節感のある料理や希望に応じたバースデイメニューを提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残し申し送りなどにて共有し支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ハミングッドなどの使用も含め口腔ケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パッドの使い方を職員間で話し合い、使用を減らす工夫など行っている	排泄パターンに応じた個別支援と羞恥心や不安に配慮した支援がされています。ミーティングでは、尿量の少ない方へのパットサイズの検討、昼間の時間帯、就寝時よっての使い分けや、1人1人にあった排泄支援を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	センナ茶やおからなどでのおやつ等にも工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	快く入浴できるよう、その方に合った声掛け、タイミングを計っている	ひとり一人の状況に合わせた形で誘い、好みの温度の湯船に浸かる週3回の入浴を実施しています。拒否される入居者については気分転換、場面転換を図りながら必要に応じて職員も交代するなど工夫し、本人の希望を大切に支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に合わせて声掛けを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノートなどの活用にて、職員一人一人が把握できるように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日、季節の行事など気分転換となるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車いすで移動できる距離で散策に出たりされる。	戸外で気持ちよく過ごせるように法人敷地内・事業所内の散歩をして穏やかに過ごせるよう気分転換を図っています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持することはないも、お小遣いとして家族から預かっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の為、面会が出来ない事から電話で画面越しにやり取りが出来ている。R510月より体調に合わせてマスク、手指消毒の元面会実施。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品、貼り紙などの工夫にて居心地のいい空間を提供している	生活空間には季節感のある物(お花、壁飾り、写真など)を置いています。桜の時期には窓から花見ができます。窓の側のソファに座ったり、ひなたぼっこをしたりして過ごしています。ひとり一人のライフスタイルに合わせて居心地よく安心出来る工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車いすの方が多い為、自操しやすい工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族への思いの写真だったり、一目で自分の居室だと分かるように工夫している	南向きの部屋へは温かい光が差し込み、クロスも少し変えて居心地よく暮らせる工夫が窺えます。馴染みのその人にあつた暮らしの調度品が置いてあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等も多い中、自由に好きな場所に行けるようにしている		